

2023年3月期 決算概要

2023年5月11日

カシオ計算機株式会社

本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの業績とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2023年3月期 連結決算実績

単位：億円

連結	22年3月期 4Q実績	23年3月期 4Q実績	前年比	22年3月期 通期実績	23年3月期 通期実績	前年比
売上高	581	626	108%	2,523	2,638	105%
営業利益	20	17	85%	220	182	83%
利益率	3.4%	2.7%		8.7%	6.9%	
経常利益	14	26	186%	222	196	88%
当期純利益	11	8	79%	159	131	82%
1株利益（円）	4.41	3.53		65.53	54.65	

セグメント別実績 売上・営業利益

単位：億円

		連結	22年3月期 4Q実績	23年3月期 4Q実績	前年比	22年3月期 通期実績	23年3月期 通期実績	前年比
売 上 高	時計		324	364	112%	1,523	1,575	103%
	コンシューマ		207	211	102%	812	864	106%
	システム		37	38	104%	133	146	110%
	その他		14	13	95%	56	54	97%
	合計		581	626	108%	2,523	2,638	105%

営 業 利 益	時計		36	33	93%	279	236	85%
	コンシューマ		10	4	36%	59	43	73%
	システム		-4	-4	-	-23	-25	-
	その他		1	1	100%	4	4	97%
	調整額		-23	-17	-	-99	-76	-
	合計		20	17	85%	220	182	83%

4Q／通期実績

- 中国、ゼロコロナ政策及び政策転換後の感染者増加の影響あり
- 日本、北米、欧州、その他地域では、4Q対前年で増収
- 相対的に利益率の高い中国、日本地域の売上構成比の低下により収益性は悪化

単位：億円

			下期	通期
	3Q	4Q		
売上高	413	364	777	1,575
営業利益率	18%	9%	14%	15%

4Q概況

【ジャンル別】 G-SHOCK比率 (BABY-G含) 4Q : 約54% (内、メタル 15%、プラ 39%)
G-SHOCK売上個数 4Q : 約160万個 BABY-G売上個数 4Q : 20万個

■ Gメタル/Gプラ

Gメタル : 八角形ケースの人気シリーズ「2100」のフルメタルモデル『GM-B2100』がグローバルで好調継続

Gプラ : 「2100」シリーズの『GA-2100』、及び軽量化を図ったマルチスポーツ対応の「G-SQUAD」シリーズ新製品『GBD-H2000』が牽引

■ G-SHOCK 注カジャンル

プレミアム : 高価格帯モデルがグローバルに伸長し、好調

女性ジャンル : 中国以外の全地域で前年比超え 新しいユーザーを獲得

■ G-SHOCK以外

EDIFICE、スタンダードモデル(カシオブランド)などASEAN地域を中心に回復基調

ヴィンテージシリーズ(カシオブランド)は欧州で人気継続



G-SHOCK
『GM-B2100』



G-SHOCK
『GA-2100』



G-SHOCK
『GBD-H2000』



G-SHOCK
『GA-B2100』



G-SHOCK
『GWG-2000』



G-SHOCK
FROGMAN
『GWF-A1000APF』



G-SHOCK
『GMW-B5000D』



EDIFICE
『ECB-950DB』



ヴィンテージシリーズ
『A100』



OCEANUS
『OCW-T200S』

4Q概況

地域別構成比（円ベース） 4Q 日本 18%、北米 14%、欧州 17%、中国 11%、その他 40%

【エリア別】 全体 4Q前年比： +5%（現地通貨ベース）

- 日本（4Q前年比 +3%）
 - ・インバウンド需要回復傾向
 - ・国内需要の回復は遅れているが、G-SHOCK40周年モデル、FROGMAN30周年モデルなど好調
- 北米（4Q前年比 +2%）
 - ・インフレ、景気悪化懸念による消費マインド低下の影響あり
 - ・開拓中のジュエラー流通を中心とした高価格帯は好調
- 欧州（4Q前年比 +8%）
 - ・G-SHOCKやヴィンテージシリーズが堅調に推移
 - ・フランスの好調が継続、ドイツ、スペインなども需要回復傾向
- 中国（4Q前年比 -22%）
 - ・ゼロコロナ政策転換後の感染拡大影響による混乱があるも、徐々に回復傾向
- その他（4Q前年比 +16%）
 - ・インド・中近東の牽引もあり全体として回復傾向
 - ・G-SHOCK、カシオブランドの需要堅調

【EC状況】 ■EC販売比率：時計全体は20%台 日本は約30%、北米は30%台、欧州は30%台、中国は約50%

■自社EC販売：4Q前年比 日本 1.2倍、北米 1.0倍、欧州 1.2倍

4Q/通期実績

- 関数電卓) 市場規模はコロナ前水準に順調に回復
インド・ASEAN地域、オセアニアなどペントアップ需要を刈り取り
利益率の高い新機種New Classwiz拡販による収益貢献
- 電子辞書) 国内コロナ影響継続、販売会中止の影響あり

単位：億円

			下期	通期
	3Q	4Q		
売上高	132	157	289	600
営業利益率	10%	12%	11%	11%

※4Q内訳)

売上高：関数・一般電卓 約66%、電子辞書他 約34%

営業利益率：関数・一般電卓 約15% 営業利益：電子辞書他 約7%

4Q/通期実績

- 部材高騰や物流高騰の影響、インフレ影響などによるエントリーモデルの需要減が継続
- 新ライフスタイル提案の Privia最上級ラインの好調継続で独自市場(Enjoyment市場)を拡大
Slim&Smart比率は向上
- 売上の減収、及び原価高止まりの影響により収益性悪化

単位：億円

			下期	通期
	3Q	4Q		
売上高	86	53	140	264
営業利益	-0	-15	-15	-24

システム事業（新規事業売上分を除く）

4Q／通期実績

- PA：為替変動に伴う原価高の影響により収益性悪化が継続
- SA：市況低迷に伴う店舗設備への投資抑制影響が継続
- CHS:人財マネジメントソリューション新製品のリリースに伴う商談を推進
- SMB：法改正対応に伴う入替需要の商談を推進

単位：億円

				通期
	3Q	4Q	下期	
売上高	32	35	67	138
営業利益	-6	-4	-9	-25

2030年を見据えた方針、並びに3か年中期経営計画については別紙、『**中長期経営方針**』にて説明させていただきます。

環境への取り組み (環境基本方針に基づく、脱炭素社会の実現に向けた取り組み)

- 本社／2技術センターを含む国内6拠点の電力を、100%再生可能エネルギーに切り替え済み
- 中国：カシオ電子科技(中山)有限公司にて、太陽光発電設備稼働 (1,470MWh/年)
更に、100%再生可能エネルギーの導入を進め、2030年度の温室効果ガス削減目標※を達成する



- 温室効果ガス削減目標がSBTiの認定を取得済み
同時にTCFD提言への賛同を表明し、提言に基づく情報開示を実施

SBTi：温室効果ガス排出削減目標が科学的根拠に基づいて、パリ協定が求める水準に整合していることを認定する国際イニシアティブ
TCFD：気候変動がもたらすリスク及び機会の財務的影響の把握、開示を求める国際的イニシアティブ



- 事業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギー由来とすることを目指す
国際的なイニシアティブ「RE100」に加盟



※【温室効果ガス削減目標】

- ・2018年度基準で、2030年度に38%削減、2050年度に実質ゼロを目指す (Scope1+2)
- ・購入した製品・サービスと製品の使用によるCO2排出量を、2030年度までに2018年度比で30%削減する (Scope3)

参考) 選定されているESGインデックス

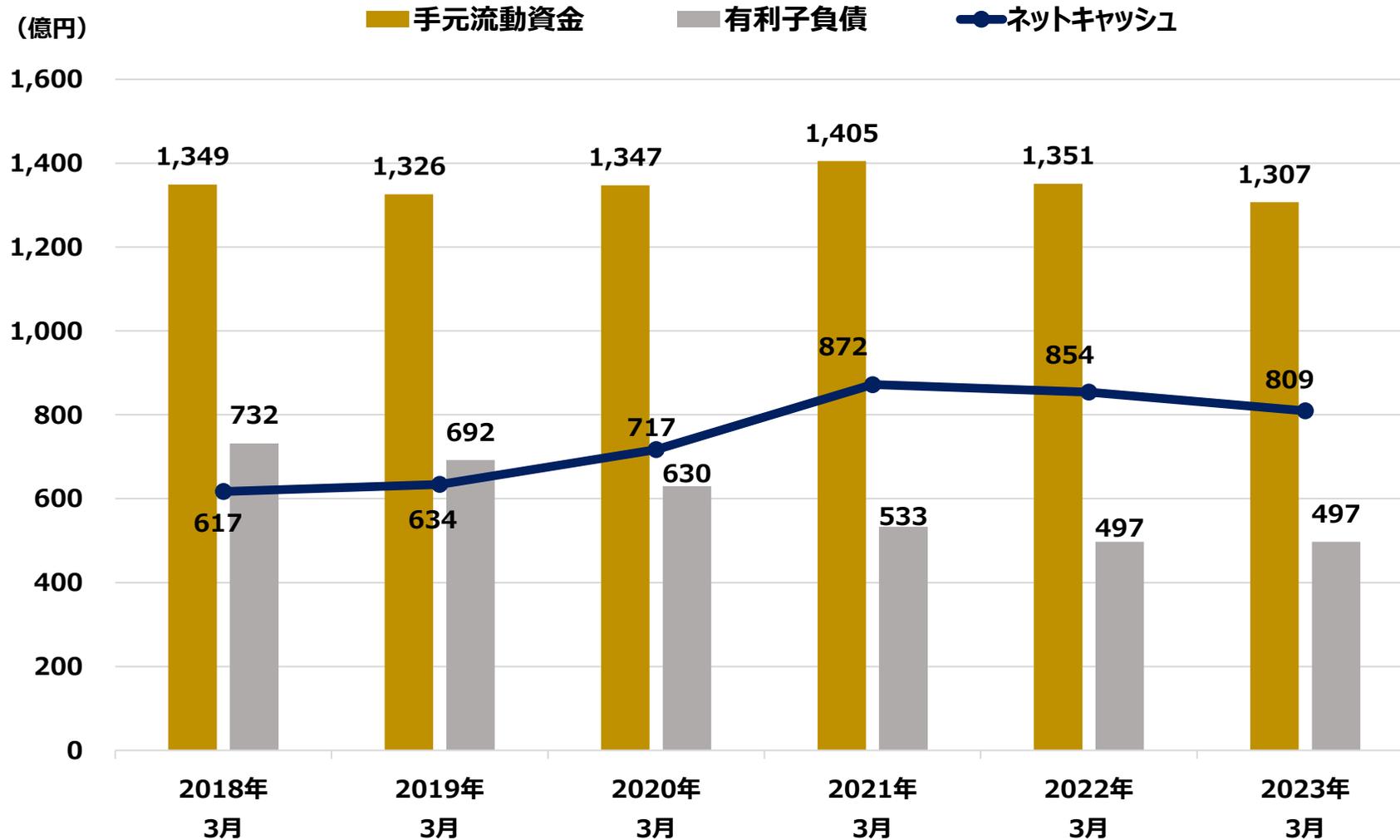
- ・FTSE4Good Index
- ・FTSE Blossom Japan Index
- ・MSCI 日本株女性活躍指数
- ・S&P/JPX カーボンエフィシエント指数
- ・FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- ・SOMPOサステナビリティ・インデックス
- ・Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index

為替影響について

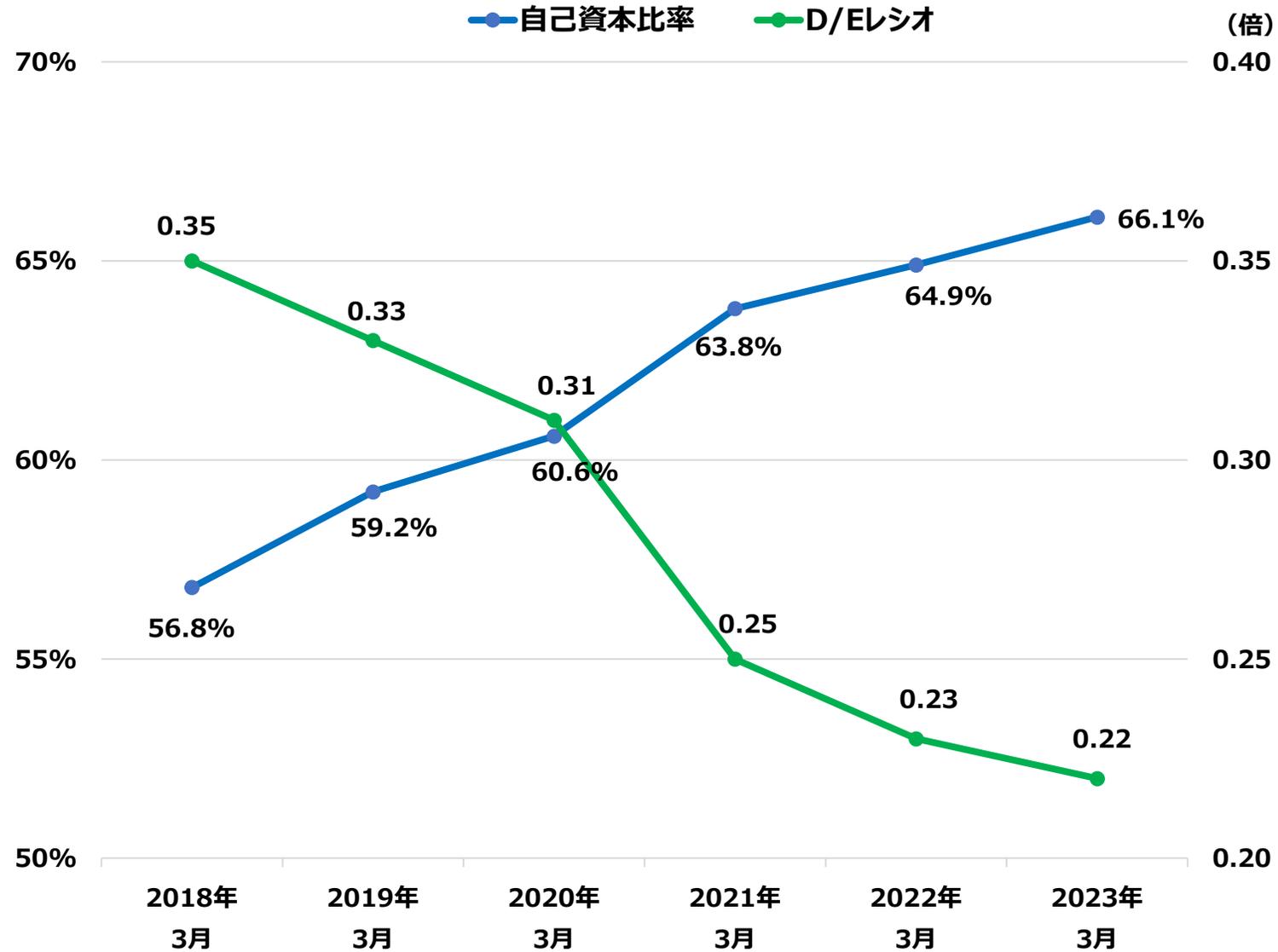
24年3月期 為替感応度 (主要通貨)	為替前提 (年間)	1円変動による影響額 (年間) (人民元は0.1円変動の影響額)			
		売上高	営業利益		
		米ドル	130円	10億円	-0.5億円
		ユーロ	145円	3.0億円	2.0億円
人民元	19.4円	1.8億円	1.2億円		

23年3月期 為替レート実績 (前年差)	第4四半期	通期	
	米ドル	132.3円 (+16.1円)	135.5円 (+23.1円)
	ユーロ	142.1円 (+11.7円)	141.0円 (+10.4円)
	人民元	19.3円 (+1.0円)	19.7円 (+2.2円)

■ 手元流動資金・有利子負債・ネットキャッシュ



■ 自己資本比率・D/Eレシオ

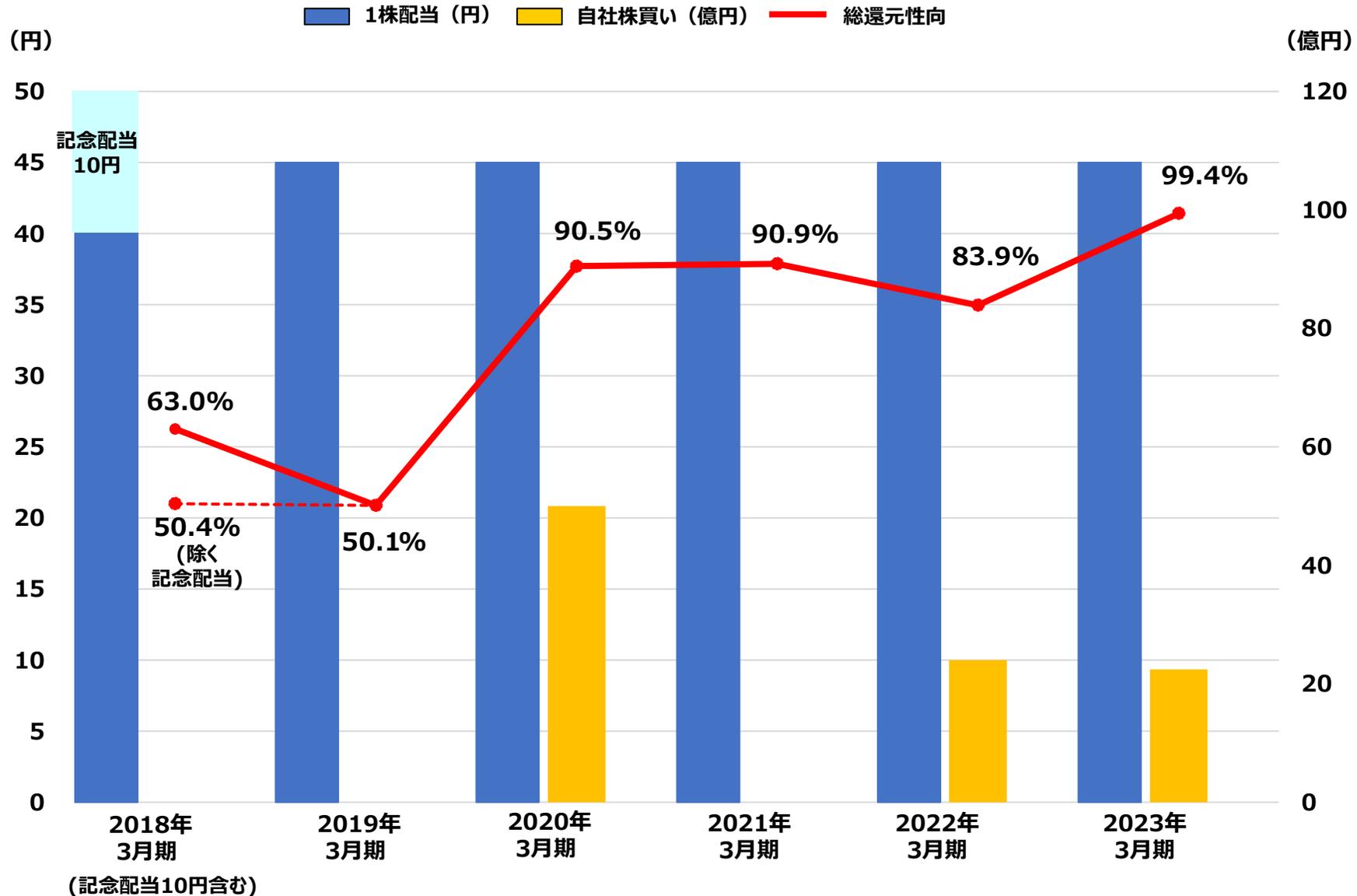


■ 年金財政

・年金財政は積立超過（財政健全化）を維持

	2019年 3月	2020年 3月	2021年 3月	2022年 3月	2023年 3月
年金資産	652億円	600億円	664億円	648億円	623億円
退職給付債務（A）	543億円	532億円	518億円	496億円	469億円
積立超過額（B）	+108億円	+68億円	+146億円	+152億円	+154億円
超過割合（B÷A）	+20%	+13%	+28%	+31%	+33%
電機・精密28社平均	-25%	-28%	-21%	-17%	-

■ 1株配当・自社株買い・総還元性向



CASIO